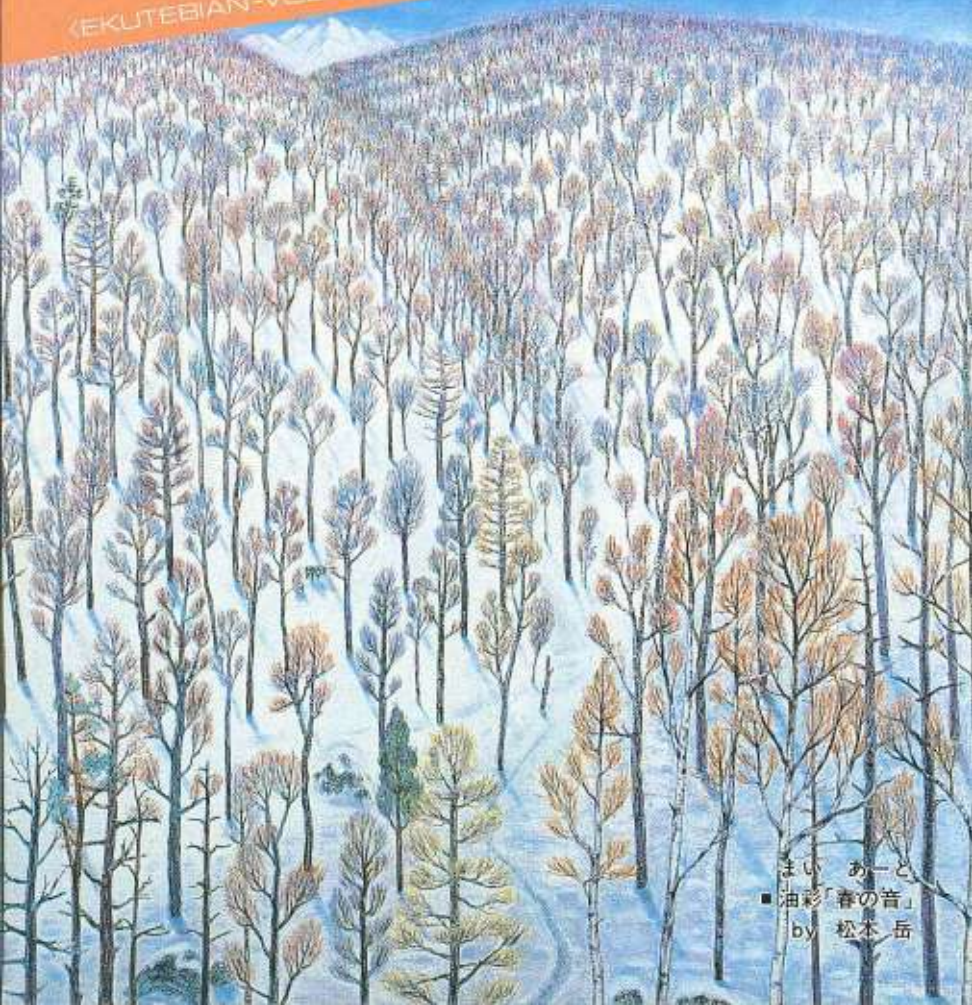


立川と語り合う 立川に生きよう

えくてびあん

〈EKUTEBIAN-VOL.6. MARCH...1989-EKUTEBIAN〉

3

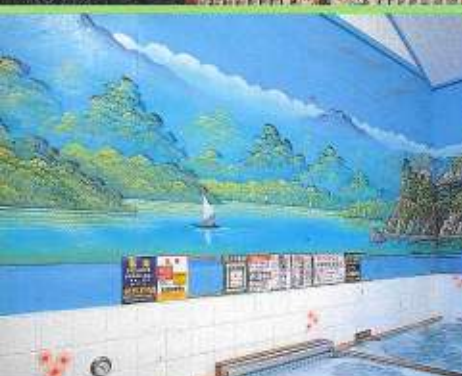


まい おーと
■油彩「春の音」
by 松本 岳



錦湯 (錦町2丁目) 「風呂屋」といってそれだけじゃないよ、看護婦だの、飯桶だの、ひとり何役もやらなきゃね」とは河村の女将さん

立花湯 (栄町4丁目) 34年間つづいた「名湯」も、昨年ついにノレンをおろした。だがここの壁画もタイル画も歴史に残る美事なもの



砂川湯 (上砂町3丁目) 砂川で唯一。「うちは新で沸かして、入る人が「湯がやわらかいな」ってよく言うがね」と浜谷さん

立川浴場 (高松町2丁目) 壁画いっばいに描かれた竜宮の絵、そして銭湯らしさが味わえる脱衣場。「贅沢な空間が…」と、平沢さん



銭湯壁画集

昭和も後半にはいつてから「内風呂」なんてんものが流行ったもんで、お風呂屋さん存在価値を見くびっているご仁がおおいようで。ですが、なに、うちのお風呂なんかテナ問題になりませんわ。広いこと広いこと、天井は高いし、お湯の量はもう段違いだし。そして、ご覧のような素晴らしい絵の数々。こうなるともう「美術館」ですなあ。



高砂湯 (栄崎町2丁目) 昭和8年創業立川一の老舗である。「昔は1日1500人からの人で行列ができた」とは滝谷さん



絵師●丸山清人
立川の背景画をほとんど手掛けている名手。



立川浴場の壁画は、丸山清人先生の手による。この壁画は、立川の歴史と文化を表現している。また、浴場の内装も、伝統的なデザインを採用している。立川浴場は、立川の歴史と文化を伝える重要な場所である。

開設100年 立川駅とともに

明治22年4月に開設された立川駅。当時は甲武鉄道として、立川―新宿間を走り、東西を結ぶ重要な駅としてその役割を果たしてきた。現在に至っては、多摩地域の東西南北を繋げる「キーステーション」へと伸展しつつある。



丸屋本本店 (曙町二丁目) 昔、天皇陛下が多摩御陵に参拝される時、小学生の僕らはお出迎えに出るんだけど、飛行五聯隊があった関係で、立川駅ではお召し列車が特別に徐行するんだよ。僕らはそれがとても自慢だった。子供の頃、今のウイルの駐車場までは、吹き抜け、という、石炭やら米やら、いろんな貨物の集積場だった。馬力(荷馬車)で引いてきた貨物をそこから貨車に積むんだ。立川駅はもとも旅客駅だけど、以前は新宿・八王子に次いで大きな貨物駅でもあったんだよ。

田舎のひなびたたたずまいで、私も一年後の大正十二年に生まれ、まもなく立川も村のころでしたよ。もともとは、今のフロム中武のあたりにあってよく飛行第五大隊ラッパが響いていた。昭和の初期のころだったかな、砂川の方から来る薩摩芋の初荷に五色に化粧した轆を立って、みかんをふるまいながら駅に向う光景も見る事が出来た。もちろん荷を引くのは牛や馬でのどかだったね。今は随分変わった。



中屋呉服店 (桑崎三丁目) うちの創業は大正十一年で、当時の立川駅は田舎のひなびたたたずまいで、私も一年後の大正十二年に生まれ、まもなく立川も村のころでしたよ。もともとは、今のフロム中武のあたりにあってよく飛行第五大隊ラッパが響いていた。昭和の初期のころだったかな、砂川の方から来る薩摩芋の初荷に五色に化粧した轆を立って、みかんをふるまいながら駅に向う光景も見る事が出来た。もちろん荷を引くのは牛や馬でのどかだったね。今は随分変わった。

おやじの代、明治ごろは今の「丸井」の近くで建具屋をしてた。それから高松町に来て半世紀以上住んでいるが、この大通りも戦後ようやく広くなってるね。昔は4m弱の道幅で雨の日は店先に戸板を立てておいたり、また、昭和九年に所沢から航空線が通ったのは、この道いっばいに黒々と自転車の群が通ったね。娯楽といえなきゃまって駅の周りだったな。サーカス、ボクシング、相撲、バイクの曲乗りと昭和十年代の思い出だね。



金子硝子店 (高松町三丁目) 山内一夫氏 昭和六一年十一月二日午後二時十分、国鉄改革法案が成立した。同時に二十七万人の国鉄職員のうち、筆を新会社へ移行し、誰を清算事業団に残すかの振り分け作業が開始された。新会社へ移行できるのは二十一万五千人、希望退職者を除く四万一千人は清算事業団へ回され、三年以内は転進しなければならぬ。新会社へ行きたいのは誰もが同じである。職員の将来を決定する調査の作成は山内氏長にとって最も辛い仕事だった。しかし、民営化が決まった以上企業人として通用する人材を育てなくてはならない。山内氏長は民営化へ向けての努力と

漢字テスト

空欄に一字挿入を試みよう。
桃李 蹊
刻 千金

十一月二九日にはゲリラ行動により通信ケーブルが切断され、首都圏の国電は運行不能となった。

職員一人一人に企業意識を持たせ、職場規律の乱れを一掃すべく努力した。努力の甲斐あって、暗くなりがちな職場が少しずつではあるが明るくなった。また、駅と街とのコミュニケーションを図るべく、市役所や商工会議所などをメンバーとする「駅友の会」に団体旅行を企画、地域社会との親睦を深めた。



16世紀・19世紀の合唱曲はいかが!
指揮 佐藤 公孝
演奏 国立音楽大学 イリス合唱団
日時 3/10 PM 7:00-8:00
場所 多摩小ホール
連絡 36-1-2939 (中接)

立川マラソン開催
走ってよし、見てよし
快足 快足 立川マラソン
開催日 3月12日(日)
会場 昭和記念公園

月刊えくてびあん 第56号
平成元年三月一日発行
発行所 えくてびあん編集工房
東京都立川市築町2-4-11
フラインビルディング3F
電話 0425-00882
編集人 立井啓介
発行人 沖野嘉男
印刷所 株大廣社



立川駅長列伝

第三九代 山内一夫氏 昭和六一年十一月二日午後二時十分、国鉄改革法案が成立した。同時に二十七万人の国鉄職員のうち、筆を新会社へ移行し、誰を清算事業団に残すかの振り分け作業が開始された。新会社へ移行できるのは二十一万五千人、希望退職者を除く四万一千人は清算事業団へ回され、三年以内は転進しなければならぬ。新会社へ行きたいのは誰もが同じである。職員の将来を決定する調査の作成は山内氏長にとって最も辛い仕事だった。しかし、民営化が決まった以上企業人として通用する人材を育てなくてはならない。山内氏長は民営化へ向けての努力と

祝・立川駅開設100年 4月8日(土)11時30分 立川駅自由通路にて
私はネコちゃんです。わけあって柴崎二丁目の水村さんちに住んでいます。父はベルシヤ系、母はトラ系。名前はピンキー、昔の歌手に同名の女子がいましたが無縁です。歳は人間でいえば30代の花盛りであります。先日昭和天皇さまが崩御なされ、新元号となりして先ず助役クラスを中心に改札口での、声出し運動を推進、次第に一般職員にも広がり乗降客からも好評を博した。また、市民から利用しやすい駅として親しまれるよう、商工会議所やロータリークラブ、こぶし会等と会合を持ち、駅や国鉄への要望に耳を傾ける一方、昭島市や東久留米市まで足を運び、大手企業を歴訪、団体旅行への参加を呼びかけ、増収に寄与した。



立川マラソンの代表者
鬼は外、福は店で、35年
最近めっきり減ってきた古来よりの行事。そんななかユニークな一団が、

立川マラソンの代表者
鬼は外、福は店で、35年
最近めっきり減ってきた古来よりの行事。そんななかユニークな一団が、

表紙は語る
「僕にとっては、非常に異色の作品といつてもいいぐらいにやさしい絵だね」と言われる松本岳さん。錦町二丁目「松本美術研究所」を構え、地域の文化向上にひと役かっている。



真如苑たより
今年はいっぴく暖冬で、草木も戸惑って、あわてて花をつけた梅もあるようです。さすが「春の春」には、暖かい冬と「本当の春」とは、やはり決定的にちがいます。早春の真如苑へ、どうぞお出掛けください。

工房から
お湯やさんを見直しました。それにしても、われながら「銭湯」という云いは古めかしかないと反省はしているのです。かと言って「公衆浴場」では、正しすぎて味がないじやありませんか。銭湯壁面の絵師・丸山さんが取材の直後にテレビのクイズ番組に出て、活躍をしております。

立川クイズ
立川はかつて日本の空の都でした。国際空港として知られていた立川飛行場に昭和の初め頃、次々に外国機がやってきました。わが街に、初めて降り立った外国機は、

えくてびあん

あーとさろん

子供の頃のやわらかな心。いくつになっても、それをもち続けている人がいる。その人たちの創る文学の世界は、子供たちにも、かつて子供だった人たちにも、その「心」を暖かく呼びさましてくれる。



清水たみ子さん

▲北原白秋に師事。童話童謡文芸誌「赤い鳥」の活動に参加、童謡詩人として早くから知られる。現在は「少年詩」の分野の創作を手がけている。「赤い鳥文学賞」などの選考委員も。（若葉町）



伊藤 修三さん

▲40才で童話作家に。デビュー作「ぼくのお姉さん」は新美南吉賞等3賞を受賞。期待の「新人」。（羽衣町）



森 忠明さん

▶寺山修司に詩才を認められ、「天井桟敷」で活動していた。作品の舞台はいつも立川、のユニークぶり。（塚町）



荒井 理菜さん

◀童話を書いて20余年。現在、作家としては勿論、児童文学評論家としても活躍中。（若葉町）